



## 事業トピックス

### 小笠原における自生種の生息域外保存事業の実施状況

林木育種センター 海外協力部 生方 正俊 遺伝資源部 星 正司

#### 1 はじめに

林木育種センターでは、平成13年度から関東森林管理局と共同で、小笠原母島の希少樹種等遺伝資源の保存事業を行っています。

保存事業を始めるに至った経緯、設定した保存林内の植生、事業内容等については、本誌第4号 - 1に、詳しく述べています。本号では、保存林内の定植予定位置及び現在までに保存した遺伝資源の生育状況を主体に保存事業の実施状況を紹介します。

なお、この保存事業における探索・収集と増殖については、平成15年度から(社)ゴルファーの緑化促進協力会の協賛を得て実施しています。

#### 2 保存林設定区域

この保存事業を行うため、母島の桑ノ木山国有林内の28林小班の一部(面積1.50ha)及び28は林小班の一部(面積0.47ha)を、小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林として設定し、区域内への定植を順

次進めています(図 - 1)。なお、この定植の箇所は、移入種のアカギの駆除跡を活用しています。

#### 3 林木遺伝資源の保存状況

昨年5月に、生息域外保存予定樹種のうち、平成13年度に播種・増殖したムニンイヌグス12系統を、平成14年度に播種・増殖したシマホルトノキ3系統、オオヤマイチジク10系統、オオバシマムラサキ10系統を、同じく11月に、平成14年度に播種・増殖したアデク15系統、オオバシロテツ15系統を、今年5月に、平成15年度に播種・増殖したウドノキ10系統を、それぞれ定植保存しました(写真 - 1)。

今年5月までに保存林内へ定植保存した樹種・系統は、合わせて7樹種75系統となります。

また、今年3月に、昨年5月、11月に保存した系統の生育状況を調査したところ、保存した6樹種のうち、オオバシマムラサキ及びオオヤマイチジクの2樹種を除き、順調に生育していました(表 - 1)。

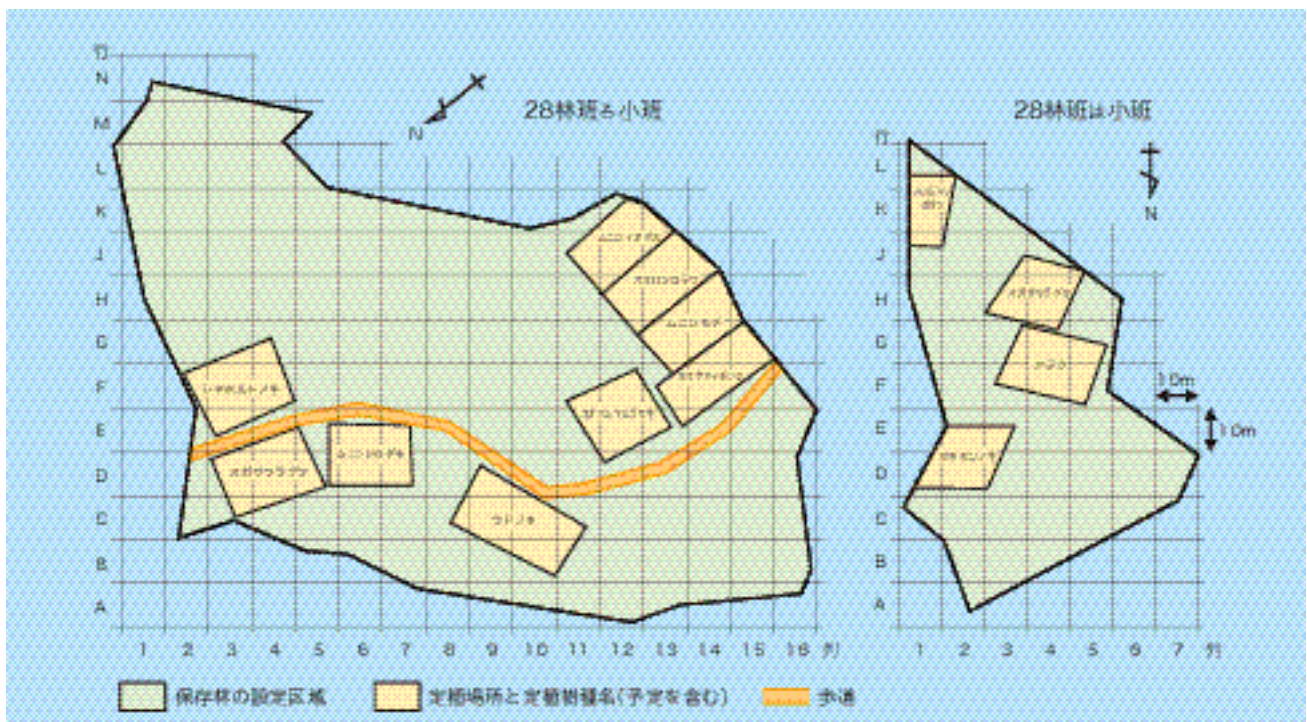


図 - 1 小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林の設定区域と定植(予定)位置図  
(保存林の設定位置については、本情報誌の第4号 - 1の図 - 1を参照してください。)

【お知らせ】 林木育種センターでは、林木遺伝資源を試験研究用に種子、花粉、穂木、苗木などで配布しています。厳密に品種・系統が管理されており、皆様の研究材料として最適です。価格は1点あたり消費税込で3,349円です。詳しい内容や入手方法につきましては、本誌裏面に記載のホームページをご覧ください。メールまたは電話でお問い合わせください。





ムニンイヌグス



シマホルトノキ



オオヤマイチジク



オオバシマムラサキ



アデク



オオバシロテツ



ウドノキ

写真 - 1 小笠原母島希少樹種等遺伝資源保存林に定植・保存した苗木

表 - 1 保存林内定植樹種の生育状況

樹種名	定植時期	系統数	定植本数	生育本数	活着率(%)	平均樹高(cm)
ムニンイヌグス	H16. 5	12	360	310	86.1	35.3
シマホルトノキ	"	3	90	87	96.7	68.1
オオヤマイチジク	"	10	294	59	20.1	31.0
オオバシマムラサキ	"	10	300	137	45.7	39.2
アデク	H16.11	15	450	448	99.6	47.9
オオバシロテツ	"	15	450	392	87.1	41.2
計			1,944	1,433	73.7	

(注) 諸調査は、平成17年3月に実施。

#### 4 アカギの駆除状況

小笠原固有の樹種の生育に悪影響を与えている移入種であるアカギの駆除については、平成15年2月から3月にかけて154本を、また、平成17年3月に、16年度に定植した樹種の生育環境等を整備する目的で、定植箇所を主体に、アカギ187本について巻き枯らし処理(環状剥皮)及び除伐を、平成14年度に巻き枯らし処理をした154本について萌芽処理を実施しました(表 - 2、写真 - 2)。



写真 - 2 アカギの巻き枯らし処理状況(左)及び巻き枯らし処理部位からの萌芽の様子(右)

表 - 2 アカギの駆除の状況(累計)

林小班	アカギ駆除本数	区域内アカギ本数(当初)
28ろ	201	555
28は	140	534
計	341	1,089

#### 5 今後の予定

1) 増殖苗の引き続きの養苗、2) 保存を予定した樹種のうち、未収集の系統についての探索・収集と増殖、3) 保存系統の保育管理、4) アカギ巻き枯らしの萌芽処理、5) 保存系統の生育状況の調査等を予定しています。